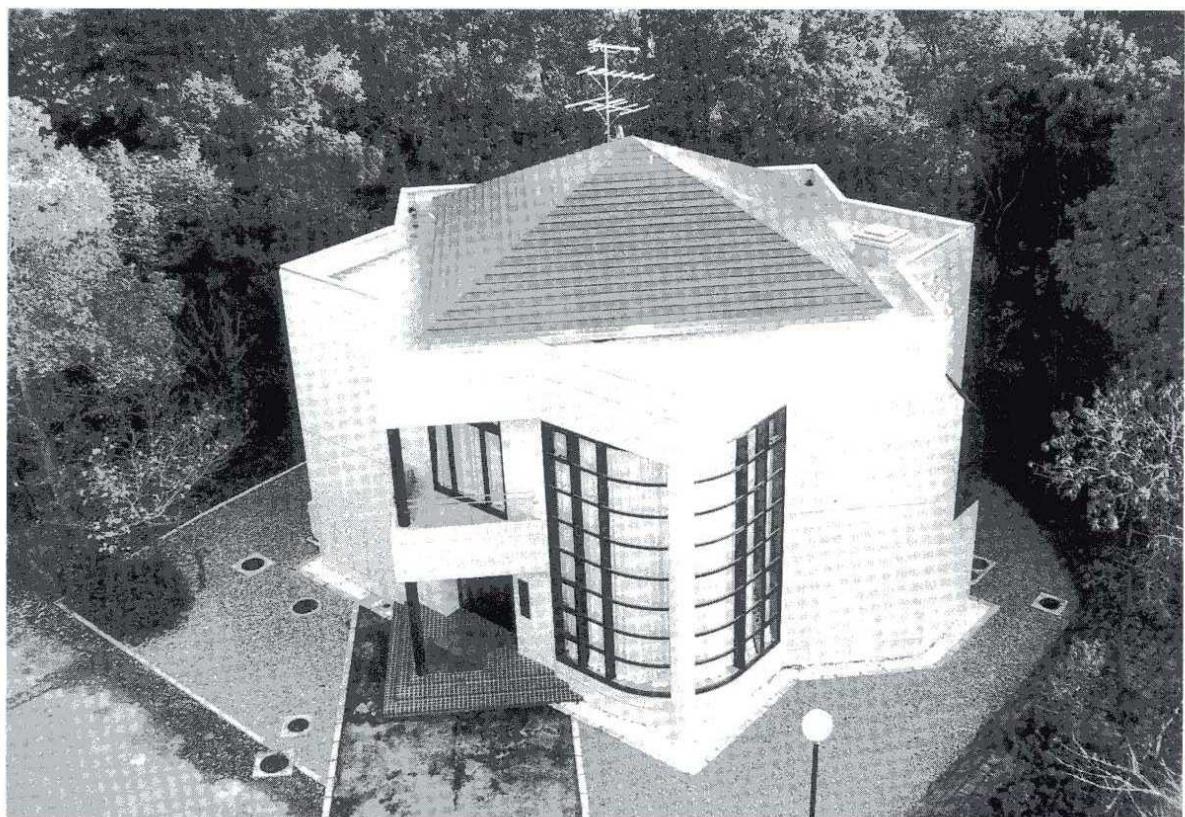


創刊号

1991.7

# 薬友会報

千葉大学薬友会



百周年記念館

## — 目 次 —

薬友会長あいさつ	2	クラス通信	7
前会長あいさつ	2	学生入学・就職状況	13
前同窓会長あいさつ	2	薬学部教員組織	14
名誉会員紹介	3	薬友会のページ	15
退官にあたって	4	みのはな山岳会の活動	16
研究室紹介	5	編集後記	16
支部だより	6		

(題字 廣瀬聖雄 前会長)

## 薬友会会長あいさつ 渡辺和夫



西千葉キャンパスは新緑が目にしめる初夏を迎えておりますが、薬友会々員の皆様には御清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび計らずも学部長の大任を仰せつかり、薬友会の会長もつとめさせて頂くことになりました。歴代の学部長が本学部同窓会の活動に力を注がれ、同窓会々長との共同作業で数々の事業を達成されてこられました。古くは薬学部記念講堂の造営、また最近は亥鼻学舎飾り屋根記念碑の定礎に統いて薬学部創立百周年記念事業の達成、特に記念館の建設と、永く後世に伝えられる事業が成し遂げられました。これら事業を通じて、同窓会々員の皆様と薬学部教職員の連係が極めて緊密なものとなり、同窓会という枠を拡大する意味で、東大、京大と軌を一にする薬友会システムがとられることとなりました。この間に示されました岩城同窓会々長の英断と、会員・教職員一丸となった熱意あふれる活動は私にとって深い感銘を受けるものがありました。この時の熱い討論の中から本会報の刊行も決断されたものであります。

大学は今、入試改革、教養部改組、大学設置基準の大幅改訂等々、戦後の大学の在り方を根底から見直す大きな転機を迎えております。学生数の激減が見込まれる近未来の大学は厳しいサバイバル競争に入るといわれております。この時期に卒業生と教職員を結ぶ上で本会報が小冊子ながら太いパイプの役割を果すものと期待しております。100周年以後の新しい歴史の創造のために一層の御力添えをお願いすると共に、各位の御健勝を祈念して御挨拶とさせて頂きます。

## 前会長あいさつ

廣瀬聖雄



早いもので、もう一年の事となりましたが、平成元年7月8日に千葉大学薬学部創立百周年記念式典・祝賀会が盛大に行われ、更に、11月には本号表紙の写真の如く大変美しい百周年記念館が完成し、その後薬学部の教育・研究に活発に利用されております。また、本年3月16日には昭和31年卒業の皆様の同級会に記念館を御利用いただき嬉しく存じました。

記念館建設をハイライトとする数々の百周年記念事業がこの様に立派に達成されました事は、実に多くの方々のお陰によるものであります、先ず第一に必要なものは十分な資金であり、そのための募金活動に絶大なる御尽力をいただきました岩城謙太郎記念事業後援会会長、藤沢栄一記念事業後援会事務局長、茂木武男記念事業後援会募金委員長をはじめとする千葉大学薬学部同窓会の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、昨年4月11日の同窓会臨時総会で、岩城謙太郎会長より、百周年記念事業が同窓会と薬学部との一体化により成功したこの機会に、卒業生と学部教職員との絆を更に深め、若い会員の方々の一層活発な参加を盛り上げるべく、同窓会を学友会方式に改組してはとの御提案があり、山根靖弘教授を委員長とし、学外委員12名および学内委員11名からなる検討委員会が発足しました。その後、委員各位の並々ならぬ御努力により千葉大学薬友会会則（案）が作成され、昨年10月13日の同窓会総会で可決されました。そして、同日開催の第1回薬友会総会で、会則第7条に従い、私が初代会長を拝命し、身に余る光栄と責任の重さを感じた次第であります。

この度、「楽しくて有益な薬友会報を」との会報委員会委員の懸命な御努力と多数の皆様の御支援により、創刊号を出せます事を誠に嬉しく存じます。

会員の皆様の薬友会に対する末永き御支援と御愛顧をお願い申し上げます。

## 前同窓会会長あいさつ 岩城謙太郎



同窓会長として八年間、同窓諸氏のご支援を受け渾身の努力を尽くしたつもりですが、ふり返って見ると果して母校並びに卒業生のお役に立ったか、忸怩たる思いです。しかし在任中に母校創立百周年を迎える、その記念事業に参画させて貰ったことは、まことに喜ばしいことでありました。同窓会を中心とした記念事業後援会が結成され同窓各位、教職員、父兄、企業の絶大な協力によって計画した記念事業のすべてを完成させることができたことは、ご同慶の至りです。私の母校は明治二十三年に第一高等中学校医学部薬学科として創設され、千葉医科大学附属

薬学専門部としての永く輝かしい歴史の上に更に千葉大学薬学部の栄光の歴史を積みあげて現在に至っています。これら百年を学校と共に歩んだ同窓会は先輩諸氏の支援によって発展して来ましたが、ここに百年祭を期として新しい世紀への更なる発展を祈念して、過日同窓会の改組を提案しましたところ、幸い多数のご賛同を得たので同窓会長辞任の時と同じくして新たに薬友会の誕生をみました。私共古い同窓生としては、この新しい会が教職員、同窓生の有意義な会として成長されることを望んでいます。いま時移り、人変わって過去の千葉医学専門学校々歌や、春、秋の逍遙歌に想いを馳せるロマンを同窓生の大多数に望むべきもありませんが、新しい薬友会が是非この心の伝統を永遠に受けついでもらいたいと思います。薬友会報第一号の発行を心からお慶びします。

## 名譽会員紹介

### 赤堀四郎 氏



赤堀四郎先生は千葉の大先輩である。当時専門学校出身者は旧帝大に進学できなかった。しかし東北大のみは専門出と女子を唯一受け入れていた。周知の如くこの中からのちに多くの人材を生むことになる。先生はしょう油の香氣成分メチオナールの発見を機とし蛋白質化学の道を開かれ真島利行先生に従い阪大理学部の創立に参画され理学部長・總長となる。文化勲章に輝く業績はよく知られるところでヒドラジン分解による蛋白質C末端の決定法は画期的であった。先生の素晴らしいは、その上多くのすぐれた弟子を世に送られた事である。花房・岡田・その他世界的科学者は十指に余る。更に経営の才は抜群で蛋白質研究所ほか多くの機関の設立に力をつくされた。三つの分野での一流の仕事は日本の科学者にはまれである。

(藤井康男)

### 久保長男 氏



久保先生は大正14年千葉医科大学付属薬学専門部卒業後、直に神奈川県に奉職、爾来40年の永きにわたり地方公務員として勤務されました。昭和24年から14年の間薬務課長職に在り、昭和36年からは参事兼薬務課長の職に在りました。神奈川県薬業会館設立の功により県退職後は同会館長として10年間在職されたほか、各種関連団体の役員・顧問等をされるなど、後進の指導育成の実績は大であります。また長年にわたり本学同窓会神奈川支部長を務め同窓会の発展のために貢献されました。これらの功績により昭和47年には勳4等瑞宝章が授与されました。先生は昭和53年胃切除手術をされたほかは90才になる今日迄実にご健康で、その秘訣は多趣味・多芸そして円満な性格、それにも増して明治男の秘められた精神力が健康な人生の支えの様な気がします。益々のご健康・ご長寿を祈念してやみません。

(茂木武男)

### 村上増雄 氏



私は千葉薬専在学中、村上先生から「電気化学」について講義を受けた。当時の先生は、左手に綱帯をし、いつも温顔を堪えた学者としか印象が残っていなかった。しかるに数年前、熱海で親友3人と会食した時、同地に住んで居られた先生をお招きし懇談した。その時先生は理研、阪大で研究者として立派な業績を挙げ、山之内製薬に移ってから次々と新製品を産み出されて同社大躍進の基礎を築かれ副社長にまで昇進された方なのに1、「人生は運である」と謙遜された。凡人は運を掴めないが、先生は見事に捕えられた。2、「山之内製薬時代は最も楽しかった」と云われ産学一体の業績をなし遂げられた。3、「赤堀先生への敬慕の念」等いろいろ例を挙げて語られ、私共は深い感銘を受けた。私は百周年記念事業の寄附金を同社にお願いに行った際、同社関係者の先生への崇敬心の大きさに驚いた。この様に立派な先生を薬友会名譽会員に頂くのは、実に意義あることと思う。(藤沢栄一)

## 退官にあたつて



### 仲井由宣教授

昭和37年から御世話になった薬学部を退官することになり、感慨無量のものがあります。私が初めて薬学部に来たのは亥鼻の校舎時代で木造の粗末なものでしたが、環境は実に素晴らしいものでした。とくに桜の見事さは今でもはっきりと思い出しが出来ます。また実習の最中に青大将が入り込んで大騒ぎになったことや、研究室の天井に大きな蜂の巣が出来て始末に困ったことなどを懐しく思い出します。

私が担当した製剤工学は、日本では千葉大にしかないという研究室で、粉末X線回折や熱測定などによって粉末製剤の性質を調べて来ました。この間、分子の状態と製剤の性質の関係の重要性に気がつき、分子製剤学の必要性を痛感しましたが、今後この方面的研究も盛んになることと思います。

昔は、やり直しが利くという安心感からか相対的な感覚が支配的でしたが、最近では絶対的な価値観が次第に強くなって来たような気がします。手当たり次第に乱読した本の内容が別の意味で今現われてくるのは大きな喜びです。一般に、大学というのは少し変ったところだと言われておりますが、いまそれを卒業させて頂いて、普通の社会のピカピカの一年生として生きて行くつもりでおります。

最後に千葉大学薬学部の発展を祈りつつ筆を擱きます。

### 細谷東一郎教授



南側の部屋の窓のすぐ近くに薬草園の草木と百周年記念館が眺められます。春になると、梅、桜をはじめ、多くの花が一斉に咲きだし、夏は鬱蒼とした林になって緑と涼風を贈り、秋は次第に色調の移る紅葉で彩られ、落葉の冬を迎えます。このような、四季の移り変わりも、十五回を数え、いよいよ定年退官の時になりました。この間熱心な学生諸君とともに充実した毎日でしたが、薬学出身でない私の無知に対し、薬学部と薬友会の多くの方々の示された暖かい御支援御協力は忘れ難く、厚く感謝いたします。

この十五年キャンパスはかなりの変貌をとげました。この薬学部でも、3号館と4号館が増え、R I 室が改修され、多くの新鋭の機器も入り、研究がやり易くなりました。

しかし、世界の第一線と比べるとまだいろいろな面でかなりの差があることは否めません。この対応には国全体として考えてゆかねばならないことが多いのですが、徐々に変化する兆しもあります。誰でも認める地の利と伝統の人の和に加え、天の時を得て、薬学部が更に発展されることを期待しております。

### 山根靖弘教授



いよいよ平成3年3月をもって千葉大学を停年退官することになりました。昭和32年9月に薬学部助教授として東大より赴任して以来、33年余り、千葉大学薬学部にお世話になり、皆様の御援助により無事に退官できることになり、大いに感謝している次第です。

千葉大学において教育・研究に従事し非常に豊かな気持の良い生活ができたことは、私の人生を充実させることができ良かったと思っています。

この間、私は日本薬学会の関東支部大会を昭和35年に副委員長として萩庭名誉教授のもとに開催したのをはじめ、環境汚染物質とそのトキシコロジーシンポジウム、金属の関与する生体関連反応シンポジウムの開催の実行委員長、とくに日本薬学会第106年会の組織委員長として薬学部一丸となって千葉大学で8,500名以上の参加者をえて行えたことなど、深い思い出として残っています。

また、薬学部の創立百周年記念事業会の会長として、本学同窓会や教職員の御協力、御援助を得て、盛大な式典や講演会の開催そして記念館の完成なども喜びと感謝の気持でいっぱいです。この百周年を契機として同窓会と大学教職員との一体化の気運が非常に高まり、今回の千葉大学同窓会が発展的に進展し、「薬友会」の名稱と共に発足することになり、本当に良かったと思っています。

千葉大学の同窓の皆様の今後のますますの御健勝を祈っています。

## 研究室紹介



### 薬品合成化学研究室

薬学部に製薬化学科が増設されたのに伴って昭和43年4月から活動を開始した研究室である。現在は医薬品素材学講座の一研究室として、2号館3階で化学合成の研究・教育活動をおこなっている。

現在医療の場で用いられている医薬品の大部分は化学合成により供給されているものである。これから世に出る新薬の本体も多くが化学合成品である筈である。そのもととなる化合物は天然から、また偶然のきっかけで見出されたものも多いが、それらをよりよい形に変形し、純粋な化合物を出来るかぎり簡便に、安定して供給できるようにする基礎を作り上げるのが薬品合成化学の目標である。学問領域でいえば有機化学であり、合成化学である。本研究室ではこうした薬品合成化学の目標をみすえて「生物活性を有する含窒素化合物の合成研究」を中心とした研究を続けている。最近ではかびや海洋生物から単離された生物活性のあるインドール・アルカロイドなどのアルカロイドおよびスフィンゴ脂質の全合成で多くの成果をあげている。

現代の化学合成の問題点の一つは必要なエナンチオマーのみを合成する不斉合成法の確立である。医薬品素材の合成にとっても重要な課題である。こうした問題を含めて4年卒論生、大学院生、職員が一体となって研究を進めている。

(日野 亨)



### 生物薬剤学研究室

生物薬剤学研究室は昭和54年、大学院博士課程新設に伴い、以前の薬剤学講座を改称した研究室であります。10年間、生物薬剤学研究室で研究教育に尽くされた藤田前助教授は、平成2年7月に北海道大学獣医学部教授に栄転され、平成3年3月、北陸大学薬学部から成松鎮雄現助教授が着任しました。

研究室の主なテーマは、(1)繫用される重要な医薬品の生体内における主要な代謝酵素 (cytochrome P-450) の精製を行い、その酵素の役割を解明する(2)医薬品の体内レベルを制御する代謝酵素活性およびその速度論的性質を調べ、細胞分画レベルの測定値を用いて生体レベルの体内動態を定量的に予測する方法論を確立する(3)肝臓灌流実験系での多標識体希釈法 (Multiple Indicator Dilution Method) を用いて、主要な医薬品の臓器レベルでの肝細胞取り込み速度および肝細胞内代謝速度を測定し、投与量や肝血流量による生物学的利用率の変動機構を解明する(4)小腸上皮細胞を用いて、薬物の生物学的利用率の投与経路依存性を説明できる小腸代謝モデルを確立するなどに要約できます。

現在、当研究室が保有している酵素レベルから全身レベルまでの研究態勢は、この分野では他に類例を見ない新しい態勢であります。

(鈴木徳治)



平成3年2月16日 退官記念祝賀会にて

## 支部だより

## 神奈川支部



30年代に「神奈川県のなはな薬学同窓会」を組織し、原則として年一回の親睦会を開催しております。歴代の会長は、神奈川県薬剤師会長あるいは神奈川県衛生部薬務課長が就任することが多く、親睦会には開局者、メーカー等勤務者が大勢参加されます。現在の会長は、県薬剤師会の永利裕生会長（S19年卒）が就任しており、平成2年度の名簿には、246名の同窓生が登載されています。

（村瀬一郎）

## 東京支部

東京支部会は千葉大学薬学部同窓会の下部組織として、会員相互の親睦と文化教養の涵養をはかるため、また母校の発展に寄与するため、銳意活動をしてまいりました。

会員は東京都内在住者と勤務先が東京にある、神奈川、千葉、埼玉の各県在住者で構成され、現在約1,200名が所属しております。

2年に1度の割合で総会及び講演会、懇親会等を開催致しておりますが、前回は平成元年12月7日、日本橋俱楽部で開催、昭和12年卒の市橋立彦先生の「新時代の経営戦略について」の講演をしていただき会員55名の参加を得て、極めて盛会でありました。また薬学部創立100周年記念事業の募金活動に対する積極的支援を会員各位にお呼びかけをし、多くの御賛同をいただきました。

今後は同窓会から改組された薬友会の新しい支部組織として、本部とも十分御相談の上、地域在住の大学の先生方、研究生、学生諸氏も含めて、積極的な活動を展開していく所存でございますので、何卒深い御理解と多大の御支援をお願い申上げます。（三浦 清）

## 千葉支部

千葉支部は大学のおひざもとではありますが、今一步活動も活発とは言えません。最近では昭和61年4月の千葉大での日本薬学会開催時に支部主催の記念同窓会を行い、57名の出席を数えました。さらに、昭和62年8月には京成ホテルにて支部総会を行い、31名の会員が集まり親睦を深めています。現在支部長は小生ですが、薬友会の発足と共に、そろそろ役員改選の時期と考えております。千葉県内においては、いつでも会えるという気楽さで、仲々まとまった形がとれないとおもいます。とは言え、地元ならではの課題もあり、皆様の御協力をお願いいたします。（国松季彦）

## 近畿支部



同窓生の中には、当近畿支部の思い出を、お持ちの方々が、おられるのではないかでしょうか。今から40年前の昭和27年、当時の4回生が、関西の製薬会社の工場見学に来阪された折、近畿支部の会員によ

って、学生の歓迎会が開かれました。近畿支部は、その後20年程にわたって、このような形で、同窓会活動を続けてきました。

現在、近畿支部同窓会（検見崎哲夫会長：昭和31年卒）は、土地柄、企業の転勤者が多いということもあって、会員の異動も頻繁ですが、会員数約100名で、年に1回、大学より関係者のご出席をお願いし、懇親会を開催し、お互の親睦をはかっています。

昨年は、11月22日丁度「神農祭」と重なり、大変な賑いの道修町の近くのホテルで、大学より廣瀬薬学部長の御出席を賜わり、同窓会を2年振り開催しました。昭和5年卒の鈴木、森島大先輩をはじめ、昭和61年卒まで20名の会員の参加を得て、大学創立100周年行事の模様を聞き、又、「秋の逍遙歌」を作曲された大谷先輩（昭和14年卒）の指揮で「秋月窓辺に降りそゝぎ…あゝ千葉薬の健男兒」を全員で歌い、時のたつもの忘れ、歎談し、旧交を温めました。

今后も、新しく発足した薬友会の一支部として、関西在住の方々の親睦を深めていきたいと念じています。今后共よろしくお願い申上げます。（早藤 弘）

## クラス通信

### 昭和3年卒業

昭和三年春、卒業の私たち同級生の中に、日本固有音楽のジャンルを代表する尺八吹奏者として、世にも傑出せる、わが友丹野雅道氏がいるのは、私たちクラスメートとして実に大きい誇りだと思う。齧山流尺八を興した中尾都山師なきあと、一個の竹管を奏でて、これを世に問う姿は雄々しくも、またうるわしい。丹野氏はわが千葉薬学に在学中、余技として弓道と尺八吹奏と、復る日本の道を選んだ。母校卒後、衛生試験所に席をおき、尔来試験官をふること幾星霜、今もなお東村上市のお宅から都内の「北研」試験室へ通勤、孜々として水質検査にいどんで、弛みない。尺八の弟子、無慮数百～千と聞く。世に「ひとりで二束の草鞋を履く」という言葉があるが、彼は正しく、これを実演して余すところがないのである。（松岡徹正）

### 昭和5年卒業(五葉会)

我々の五葉会は毎年五月に箱根湯本温泉天成園で一泊のクラス会を開催している。昨年は卒業60周年のクラス会であったが、この数年逝去者が増加して既にこの世を去った会員数は今年1月現在で36名を数えるにいたり、現存者は22名という状況である。そしてこの中、クラス会に出席する会員は平均して毎年10名内外で、不参加の中には体調不良が理由の者も若干いるようである。最近日本人の平均寿命が著しく伸びていることはまことに喜ばしい限りである。しかしまた、人の世の定めとはいゝながら、毎年に会員が欠けてゆくことは嘗えようもなく淋しいことである。（石田 新）

薬友会報の発行にあたり御援助いただき、誠に有難うございました。以下に紹介させていただきます。

会報編集委員会

### トヨエイヨー株式会社

取締役社長 田 中 照 夫  
(昭和25年卒)

〒104 東京都中央区京橋3-1-2  
電話 03-3281-3888

### 昭和8年卒業(八千葉会)

昭和八年に卒業したので八千葉会（やちようかい）と名づけた。同級会は昭和四十年頃から、なるべく夫婦同伴で出席することになっている。国内に散在している会員が幹事となり、2泊3日の旅を企画し、毎年六月中旬頃の集いは20名前後の出席者を得ている。なかでも卒后五十周年東北での時は24名の多数であった。元東京工大名誉教授であった水口純君など優秀な会員が御逝去なされ、現存者は半数以下に減ってしまった。紙上にて物故会員諸兄の御冥福を祈ります。しかし八千葉会員はお互いに励まし合って毎年の集いを続けてゆくでしょう。

（前納 勇）

### 昭和8年卒業(昭九会)

吾等のクラス会は昭九会である。卒業の時にクラス会の名を何にしようかと相談した際、昭九は昇給に通ずということで決定した。以前は毎年1回、各地の廻り持ちでクラス会を開いてゐたが、生存者が半数を割ってしまい、更に老人病者もあって現在では年1回、お江戸の数寄屋橋の傍で開くことにしてゐる。集る人数は大体10名位でお互いに健康を祝して飲み喰べてゐる。昭和63年には船橋の川奈部君の肝入りで、卒後55周年の記念の文集を生存者の全員の寄稿と写真を載せて作成したが、既にその内の2名が他界してしまつてゐる。その文集の冒頭に「学習、育成の時代を終り社会活動を生き抜き、余生は経験、知識を生かし体に気をつけ楽な気持で日々を送って欲しい」と記されてゐるが、全員がそんな気持であることは間違いない。（中村晃蔵）

### 昭和10年卒業(十千葉会)

昭和10年卒の同期生62名は、初代会長に田辺君を満場一致で推し、十千葉会が発足した。昭和58年発行の薬学部同窓会名簿には、物故者23名現会員39名とある。

### 三共株式会社

〒104 東京都中央区銀座2-7-12  
☎(03)3562-0411(代表)

田辺会長はその年10月に他界される迄、会長を続け、誰よりも会を愛した人。死の病床から、相互連繋の組織案を発表し、会員を地域毎5ブロックに分け1ブロック毎に幹事及び代理を置き、事あれば会員はそのブロックの幹事にそのことを伝え、幹事はその会員個々に連絡すると共に、会長又は幹事長に伝える。会長は直ちに他のブロック幹事にそれを通達し、受けた幹事はその会員へ伝える。この事を各自家族にも徹底しておくことと、情報連絡組織造りを残して逝去された。總会年1回、昭和53年他界されるまで鏡味名幹事長が取り仕切って呉れた。その後は中村君が継ぎ、卒後50周年の總会は、懐しの千葉で開いた。出席15名だった。初代会長の跡目は推されて中村君が二代目を継いだ。昭和63年から、現三代目会長立崎君副会長中山君幹事長若林君のトリオを中心に会員29名、情報連絡組織を軸に親睦を更に密にし、さわやかにすこやかに20世紀を生き抜いている。

(河島修造)

### 昭和11年卒業(土 葉 会)

我々が千葉薬専を卒業したのは、昭和11年3月であつたから今年は満55年になる。人生50年と云われ停年も50歳の頃であった。昭和8年に入学したときは定員の50名であり3年間で留年退学と2人入れ替ったが卒業のときも50名であった。その後戦中戦後の混亂期に戦死者7名、病没者16名となった。我が国の平均寿命は戦後46年の間に著しく伸び今や世界一の長寿国となり昨年は女81.77歳、男75.77歳となつたが此の恩恵に浴してゐる生存者は27名となった。昨年は生存者全員に呼びかけて物故者の追悼の集いを催した所7名は病気療養中で健常者は20名中遠くは岡山から又郡山、桐生、高崎などから18名が参加され物故者を偲んで大いに語り合い旧交を温めた。尚千葉薬百周年記念事業後援のための募金に対し土葉会は60万円の割当を受け169万円の応募をいただいたことを報告し御協力を謝した。

(大河原五郎)

### 武田薬品工業株式会社

〒541 大阪市中央区道修町二丁目3番6号  
電話 06-204-2111

### 昭和13年卒業(亥 丘 会)

卒業時54名の会員が今までに20名死去し、1名が消息不明で、残り33名が生存している。昨年12月に村松君、北川君が相次いで亡くなり段々と淋しくなつて行く。昭和63年に千葉市内で卒後50周年記念クラス会を開催し旧交を温めたが盛り上りに欠けてしまった。旧校舎飾り屋根、百周年記念事業には大部分の会員が絶大な協力をしてくれた。本年5月25日に東京で久し振りにクラス会を開催する予定。会員の中、10名位が健康を害しているので、先ず健康第一を考え、家族や他人に迷惑を掛けず、謙虚で明るい生活を続けることを願っている。

(藤沢栄一)

### 昭和14年卒業

私達のクラスは、5~6年前から、毎年十月にクラス会を開くことに決めていまして、地方の方は、それに合わせて、用事をつくっていただいて上京出席してくれます。毎会特別な努力をしなくとも、20人前後のクラス会になることが定着してきました。卒業当時、支那事変の洗礼をうけており、それぞれ苦労してきていますから、今となれば、適当に枯れてきて、良い雰囲気のクラス会になっています。大部分は優雅な第二の人生を歩んで、まだまだ元気で年寄りくさいところがないのが何よりです。来年も又、この会にでられる様にと励まし合って別れるのが、合言葉になりました。

(福神益夫)

### 昭和15年卒業(二 六 会)

戦後第1回の二六会は昭和39年6月に千葉で開催された。以後平成2年6月までに10回、同年10月には韓国ソウルで小人数ながら11回目を記録した。この時は同級生の沈吉淳君(国立ソウル大学校名誉教授)に大層お世話になった。健康に気をつけ今後も集まろう!

(石丸正美)

### 塩野義製薬株式会社

〒541 大阪市中央区道修町3丁目1番8号(本社)  
電話 06-202-2161

## 昭和16年12月卒業(宣葉会)

1991年は卒業50周年に当る記念すべき年で、秋には千葉で盛大にクラス会を開催する予定です。思えば、卒業の時が太平洋戦争の宣戦布告の月で、その“宣”の文字をクラス会の名称につけたわけです。50名のクラスメートは、戦死を含めて22名他界し、27名の消息はよくわかっています。昭和21年9月の第1回クラス会から、昨年までに38回を数え、この所ほぼ年1回クラス会を開催しています。また、正月には「宣葉会だより」という会報を発行し、連絡を密にしています。今秋は、国友・古山・原田の3君に幹事をお願いし、卒業50年を祝福したいと思います。皆様、どうかお元気で！  
（安田英夫）

## 昭和18年9月卒業

学徒動員会により繰上げ卒業となり、その年の12月には夫々陸海軍に入隊となり、不幸にして戦死、又はシベリヤ抑留後生還等々波乱にとんだ青春時代であった。終戦後、中々クラスメンバーとは連絡が取れず何年かが過ぎてしまったが、幸にも同級の林誠先生（当時腐敗研究所教授）を中心に情報の収集につとめ、やっとクラス会が開催出来たのが、私の記憶では、昭和40年過ぎになったと思います。その後何回か、なつかしき亥鼻台に集り湊顯先生と歓談致した事もありました。私が幹事後で栃木県の那須温泉にてクラス会を開催し、その後不事にして林誠先生がなくなられてから行われておりません。然し平成3年1月から早川昌平君（旧姓佐藤）の発起により、クラスメートの情報収集がはじまり、現在31名の確認が出来、クラス会開催を前提に、各自に近況報告を書いてもらい、クラスの小冊誌「丘の上」No.5として発刊する準備をしています。クラス会は今年の秋に実施する予定であります。

（辻 重明）

## 昭和19年卒業(がまのほ会)

卒業以来45年、同級生とは人生の中で掛け替えのな

### 岩城製薬株式会社

代表取締役 岩城 謙太郎  
(昭和15年卒)

〒103 東京都中央区日本橋本町4-8-2  
電話 03-3241-2070

い友人で、何かにつけ情報を取りあっているものです。しかし年令も70才に近づいてくると物故者の情報も多くなり、これから的人生を考える事が多くなります。平成3年2月現在学級世話役に入っているデータによれば物故者19名。近況のわかる人27名、これがあと10年もするとどんな事になるか心寒しいものがあります。ただ昨年一番楽しかった事は同窓生廖繼思君の発案で同窓会を台湾で行いました。色々と同級生の情報を飛行機の中、現地のバスの中で話し合いまして心が40年前の学生時代にバックしました。残念な事に出席者7名でした。  
（神取（橘）喜雄）

## 昭和20年卒業(るっぽ会)

私どものクラス会の最近の活動状況を報告します。  
昭和63年6月4、5日：浜松館山寺ロイヤルホテル出席者；宮崎（当番）、大塚、田村、玉木、中川、西川、原、細川、横田、吉田 平成1年7月7、8日：千葉市ワシントンホテル（千葉大学100周年記念式典）出席者；田村、池田、岡部（当番）、大谷、金子、坂本、鈴木、玉木、中川、長島、西川、原、細川、宮崎、横田、吉田、当山 平成2年7月6～8日：三沢市古牧温泉～碇ヶ関かんぽセンター（十和田と津軽観光）出席者；細川、坂本（当番）、仁平、大谷、横田、飯塚、中川、吉田、原、田村、鈴木、金子、山田 平成3年は、金子（山形）、鈴木（福島）山田（宮城）三君の当番で南東北の地で開催の予定であります。物故者；石田良平、萩野邦男、斎藤勇、滝口吉郎、矢島武雄、和田孝則の諸兄です。謹んで御冥福をお祈り致します。  
（原 文男）

## 昭和23年卒業

私は卒業40周年と還暦の二つの大きな節目を記念して、久し振りの同期会を開催した。時：S63年5月7日 場所：新橋『新橋亭』出席者はゲストの池田先生を含め30名を数え、大変盛会であった。席上100周年記念事業の募金に対する応募を強くお願いした。後日出席者に対する記念写真の配布の他、欠席者に対し

### エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4-6-10



新名簿と出欠両者の近況を郵送して同期会に対する親感を計った。今年は新記念館を見学するプランを加えた同期会を考えている。〔幹事、原田、芳賀、三浦〕  
(三浦 清)

## 昭和24年卒業

母校の100周年記念行事に我々のクラスもできるだけの協力をしたいということで、昭和63年に、場所のお世話を高橋君にお願いして神奈川県大山でクラス会を行なった。多数の参加を得てすこぶる楽しい会であった。翌年は記念行事協力のための取纏めということで、細倉君に場所のお世話をお願いして千葉県白浜で有志のクラス会を行った。白浜は真冬でも霜が降りない暖い土地ということでリゾートマンションが沢山できていて土地も坪100万するというのに驚いた次第であった。これからは少くとも隔年にクラス会をしたいということで、本年は埼玉県居住者が幹事というこになっている。

(崎山晃正)

## 昭和26年卒業

卒業して今年で丁度40年になります。級友も皆還暦の年頃です。我がクラスは旧制「薬学専門部」最後の卒業生であり、本薬学創設以来初めての女性が二人います。また「玉のコシ？」に乗った男達が七人もいるという楽しいクラスです。あの亥鼻台で騒いでいた悪童たちも、今では夫々に第二の人生を元気に歩んでいます。

(仲田欣一)

## 昭和31年卒業(三一會)

クラス会は、卒業年次から「三一會」と名付け、千葉薬の縁を大切にしています。平成2年には、2月24日に東京大丸の特別室でクラス会を開き、全国から30名が集まり盛会でした。出席者の多くは、年相応の顔になりましたが、まだ歳を取らない人もいます。クラスメートは連絡が密であり、公私にわたり協力しています。薬業界、薬剤師会では、取締役、会長などとして活躍している者も多いのですが、宝塚月組スター麻

乃佳世の父親が同級生にいることは楽しいことです。  
(星 昭夫)

## 昭和32年卒業

卒後34年が過ぎ、あらためて級友の有難さを知る頃となった。こゝ数年はクラス会を開いていないが、40余人が一人も欠けず、それぞれに活躍しておられることを何よりも誇りに思っている。もう一つ、級友の3人までが薬学部の教授をつとめておられることも喜びである。千葉大学・膜機能学の畠本氏が、帝京大学と北陸大学では高山、土屋氏が薬化学をまかされている。なお、土屋氏はこの4月から学部長に就任されている。明年は武田薬品の片岡氏らのお世話で、ひとつ、盛大な三十五周年のクラス会を催し、互いの健勝を祈念したいものと考えている。

(宮田満男)

## 昭和33年卒業

私達のクラスは、男子33名、女子11名で男子1名はインドネシアからの留学生です。現在、全員恙なく、夫々の道を歩んでおります。毎年、男子は8月の最終土日曜日、女子は6月初旬の日曜日、全員は5年毎に旧交を温めております。そろそろ停年という年令になり、皆それなりに忙がしいのですが、男子は20名前後、女子は全員出席という具合です。母校では、渡辺和夫教授が後輩の育成という重責を負い、私達のために学校との窓口を務めてくれています。佐渡在住の脇野春子さんが、停年退職後、佐渡版画村のお世話方々、版画の創作に励んでおり、平成元年に落成した創立百年記念館の1階ロビーに、彼女の作品が飾られています。

(渡辺 楷)

## 昭和34年卒業

卒業30年を記念して、1989年6月に卒業後初めて箱根湯本温泉に1泊しました。沖縄から、また成田空港からの直接の参加もあって、盛会のうち、お互いに30年の歳月を嗜み締めつつも、青春時代のほろにがい思い出にひたりました。それぞれ定年を指折り数え、人生のはかな

## 吉富製薬株式会社

常務取締役  
医薬営業本部長 檜見崎 哲夫  
(昭和31年卒)

〒541 大阪市中央区平野町2-6-9  
電話 06-201-1690

## 株式会社 龍角散

代表取締役社長 藤井 康男  
(昭和29年卒)

〒101 東京都千代田区東神田2-5-12  
電話 03-3866-1177(代表)

さにそなえて、毎年一度はクラス会を開くことに決めました。本年2月山崎淳子さん（旧姓本多）が急逝され、昨年秋のクラス会に彼女が出席して下さったことがせめてものなぐさめになりました。（長尾美奈子）

### 昭和35年卒業（珊瑚会）

昭和35年卒業の我がクラスは、その名も相応しい珊瑚会というネーミングである。会のメンバーは女性14男性28の42名、千葉市亥鼻にあった明治時代創立の由緒ある木造平屋の階段教室で卒業の日を迎えた最後のクラスでもある。珊瑚会では、6年前、卒後四半世紀を記念して千葉に集い、「皆と未来21」というテーマで21世紀にむけて様々な意見交換会を行った。昨年は昭和で数えると65年、珊瑚会メンバーの卒後30年を記念し、21名の参加を得て、6月に1泊2日で、内藤記念くすり博物館見学、長良川鵜飼見物を楽しみ、翌日は京大壱長類研究所と犬山モンキーセンターを見学した。分析の今成教授が母校で健闘してくれて一同心強く思っている。二世が千葉薬に学ぶ恵まれた親あり。卒後三十年を記念し文集を作る事となり、もう出来る頃。（塩野谷博）

### 昭和36年卒業（三六会）

今年は卒業30周年に当るので記念のクラス会を開こうかと話合っています。この前は千葉薬百周年記念の時でした。数年毎に何かきっかけがあると開いています。年令的には男性（46人卒業中20名）は会社では中堅幹部から部長以上の幹部になっていますが、一方では早いところは定年も目の前にちらつきつつあるといったところです。開局している人はいずれも地域薬剤師会のリーダーとして活躍しています。卒業以来男性で同一場所に勤務している人は6人です。女性は結婚（全員）後も引き続き職業を持っている人は2人ですが、落着いてから再び働き始めた人は多いようです。

（村上泰興）

### 昭和37年卒業

百周年記念事業では多数のクラスメートの積極的な協力と幹事役の星野英雄、伊坂光のお二人の尽力によりクラスの募金目標額を越える成果を得ることが出来ました。完成した百周年記念館の見学を兼ねて、平成2年11月17日に千葉でクラス会を開催（幹事、星野、澤井）42名のクラスメート中20名が参加する盛況でした。百周年記念館、薬学部施設を見学後、千葉市内の会場で久し振りの懇親の機会を持ちました。その席上、卒業後30周年を記念して平成4年に東京での盛大なクラス会が提案され、全員の賛成で決まりました。今回欠席の方々も次回はぜひご参加下さい。（澤井哲夫）

### 昭和38年卒業

わがクラスは、カンボジアの留学生一人を除いて全員健在であり、その元気さのエール交換をオリンピックの年毎に温泉地を中心に泊まりがけで行っており、出席者は40人中30人前後とにぎわいを見せております。90年12月に小古間時夫君（ニューメキシコ州立医科大学教授）が久しぶりに帰国したので、廣瀬学部長、坂井教授をお招きして、臨時のクラス会を行いました。91年には谷孝之君が母校から薬学博士、中島祥吉君が順天堂大学から医学博士が授与され、加藤安之君、小古間君、林万喜さん、松永泰子さんと合わせて博士が六名となりました。また、高橋淳一君が虎ノ門に特許事務所を開設しました。（原口克介、村瀬一郎）

### 昭和40年卒業

1クラス40人の割に活躍している人が多いと思います。毎回幹事を決め、2~3年毎にクラス会を主に東京で開いております。一時は子供の話題が多く、最近では責任ある立場になってきたせいか話題が広くなってきた。一度に20~30人が集まります。たくさん集まれることはそれだけ幸せな人が多いことなので大変喜ばしいと思います。ただ、大野（旧姓今井）さん、塩崎君、それに羽根田君を失ったことは大きな悲しみ

## 第一製薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋三丁目14番10号  
03(3272)0611(大代表)

## 日本化薬株式会社 医薬事業本部

〒102 東京都千代田区富士見1-11-2  
03(3237)5051

です。

(鎌滝哲也)

## 昭和45年卒業

団魂の世代のトップバッターであり、2学科制になって学生数が80人になった初めてのクラスとして薬学部にお世話になって以来、何かとうるさいが頼りになる?と自負しながら、世間を生きてきたように思う。この間定期的なクラス会はなかったが、個々のレベルでの交歓は続いてきた。こんな中で昭和62年(1987)5月、卒業以来17年ぶりに製薬化学科との合同クラス会が東京で開かれ約50人が集まった。御世辞では無く皆さんのが実に若いので驚いた。女性ゲンも職についている人が多く、社会貢献度は高い。次回の集まりの時も元気な顔を合わせられるよう充実した日々を過ごされることを願います。  
(笈川節子)

## 昭和46年卒業

団魂の世代として戦後の厳しい時代に生まれ育ち、入学試験、就職、結婚と共に激しい競争社会の中にあった昭和46年卒業組も既に四十年代。大学を卒業して今年で20年を迎える、7月14日には東京で両クラス合同の同窓会を開くことを企画している。二十年の光陰はまさに矢の如く、無念にも既に永遠の別れをした村松豊吾がおり、昭和62年桜咲く時には、薬学科を担任された北川晴雄教授が突然、他界された。製薬化学科の担任をされた山根靖弘教授もこの3月に停年退官を迎られ、大学との距離が益々遠く感じられる。それだけに本学部出身の同窓人として徒党を組んだ仕事を実践すべき時かもしれない。  
(中澤裕之)

## 昭和47年卒業

学窓を離れ、20年目を迎えました。均一だった集団も卒業後様々な方面に拡散し、夫々が社会の中で必要な人物として活動しています。この間、ほぼ2年に1回クラス会を催し、また、日航機事故で亡くなった山口勝人君の冥福を祈り、毎年桜の頃に有志で墓参しています。まとまりの良いクラスだと思います。これから思い出を懐しむ年代になりますが、思い出話しと共に情報交換の場としてもクラス会を続ける予定です。近日、乞御期待!  
(上野光一)

## 昭和51年卒業

少し古くなりますが、1989年3月にクラス会が開催されました。秋山(旧姓近藤)洋子さんの御主人の経

営するレストラン「ピストロ・サンマルタン」(東京麻布十番)で25人程が集まり、フランス料理に舌づみを打ちながら楽しいひとときを過ごしました。十八公宏衣さんは、国連ボランティアとして1989年3月から南太平洋のツバルへ着任しています。現地で薬剤師として活躍されていますが、この詳細について「ファルマシア」26巻12月号(1990)に紹介されています。任期は2年ということですので、もう帰国しているかもしれません。  
(渡辺敏子)

## 昭和60年卒業

ついこの間卒業したばかりだと思っていましたが、卒業してから既に6年も経ってしまいました。わたしたちのクラスはたいへんまとまったクラスで、毎年クラス会が開かれております。出席率も毎回4~5割を数え、そのたびに2次会、3次会と大盛況となり、幹事がうれしい悲鳴を上げる始末です。皆、多方面にわたくって活躍しており、年令的にも30代が近づき職場においても、いよいよ脂がのり始めた働き盛りとなってきたいるようです。  
(米持悦生)

## 昭和63年卒業

私達84Pの学生が卒業してから、早くも四回目の春を迎えるました。それぞれ社会の一員として活躍する一方、個人的にも嬉しい便りの聞かれる頃となりました。そのような中、昨年の三月に箱根でクラス会を開きました。40名ほど集まり、久しぶりに学生気分に戻り、賑やかな一時を過ごしました。これまで何度かクラス会を開きましたが、やはり学生時代の友人はいつ会ってもいいものです。84Pでは今後とも諸先生方を交えたクラス会を開き、皆で楽しい時間がもてるよう努めています。  
(石井伊都子)

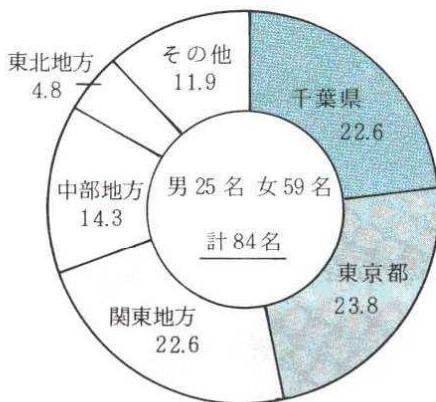
## 平成21年卒業

私達の学年では去年の11月17日に新宿で同窓会を開きました。第1回とあって50人程が集まり話に花が咲いていました。今後も年1回ペースで企画をしていきたいなあと思っています。次に筆者のまわりで噂される話題のうちで割と確実なものを2つ。  
i 本報が手に届く頃にはもう結婚している人がいるらしい。  
ii 六本木のTV局の番組に自社製品の格好をしてた人がいるらしい。最後に本学年同窓会に名前をつけたいうなのでこの場を借りて募集します。  
(浅田安則)

## 入学者の出身地別割合

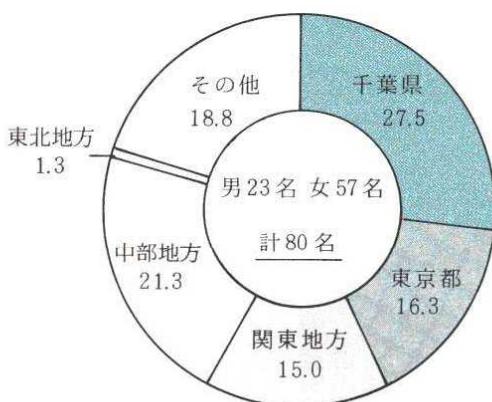
1991年学部入学者

(単位: %)



1990年学部入学者

(単位: %)



## 卒業生の進路

会社/進路	1991年3月卒業			1990年3月卒業		
	4年	院	計	4年	院	計
進学者	33(5)	5(0)	38(6)	31(6)	7(2)	38(8)
(千葉大学大学院)	30(6)	4(0)	34(6)	30(6)	6(2)	36(8)
(他大学大学院)	3(3)	1(0)	4(3)	1(0)	1(0)	2(0)
山之内製薬㈱	5(5)	6(1)	11(6)	4(3)	3(0)	7(3)
エーザイ㈱	4(3)	3(0)	7(3)	0(0)	4(0)	4(0)
㈱ツムラ	1(1)	5(2)	6(3)	3(2)	2(0)	5(2)
日本ロシュ㈱	5(5)	0(0)	5(5)	2(2)	1(0)	3(2)
第一製薬㈱	0(0)	3(0)	3(0)	1(1)	4(2)	5(3)
萬有製薬㈱	2(2)	3(0)	5(2)	1(1)	0(0)	1(1)
帝人㈱	0(0)	2(1)	2(1)	1(1)	2(1)	3(2)
サントリー㈱	3(2)	0(0)	3(2)	1(1)	0(0)	1(1)
大学、研究所※	0(0)	3(1)	3(1)	1(1)	0(0)	1(1)
中外製薬㈱	1(1)	2(0)	3(1)	1(1)	0(0)	1(1)
花王㈱	1(1)	1(1)	2(2)	1(1)	1(1)	2(2)
国家公務員※※	0(0)	2(0)	2(0)	0(0)	2(2)	2(2)
帝国臓器製薬㈱	1(1)	1(0)	2(1)	0(0)	2(0)	2(0)
東レ㈱	1(1)	1(0)	2(1)	2(2)	0(0)	2(2)
持田製薬㈱	1(0)	1(0)	2(0)	2(2)	0(0)	2(2)

会社/進路	1991年3月卒業			1990年3月卒業		
	4年	院	計	4年	院	計
研究生、研修生、研究員	0(0)	1(1)	1(1)	1(0)	2(0)	3(0)
大正製薬㈱	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)	2(2)	4(4)
藤沢薬品工業㈱	2(2)	1(0)	3(2)	0(0)	0(0)	0(0)
日清製粉㈱	0(0)	2(1)	2(1)	0(0)	1(1)	1(1)
日本メジフィジックス㈱	2(2)	0(0)	2(2)	1(1)	0(0)	1(1)
三共㈱	0(0)	1(0)	1(0)	1(1)	1(0)	2(1)
田辺製薬㈱	0(0)	1(0)	1(0)	2(2)	0(0)	2(2)
三菱化成㈱	1(1)	0(0)	1(1)	1(1)	1(0)	2(1)
協和醸酵工業㈱	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)	1(0)	3(2)
明治製菓㈱	0(0)	2(1)	2(1)	0(0)	0(0)	0(0)
吉富製薬㈱	1(1)	1(0)	2(1)	0(0)	0(0)	0(0)
イオナ・インターナショナル㈱	1(1)	0(0)	1(1)	1(1)	0(0)	1(1)
病院薬剤師	0(0)	1(1)	1(1)	0(0)	1(0)	1(0)
㈱ヤトロン	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(1)	1(1)
ライオン㈱	0(0)	1(1)	1(1)	1(1)	0(0)	1(1)
キッセイ薬品工業㈱	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(0)	2(1)
武田薬品工業㈱	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)	2(0)
三井東圧化学㈱	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(0)	2(1)

( ) は女子の人数

※ 北里大学薬学部、マヒドール大学薬学部（タイ）、跡相模中央化学研究所、生体化学研究所

※※ 厚生省、国立衛生試験所、農林水産省

## ☆ 2年間に1名就職した会社

旭化成㈱、味の素㈱、栄研化学㈱、エスエス製薬㈱、㈱カイノス、キッコーマン㈱、グレラン製薬㈱、寿製薬㈱、参天製薬㈱、塩野義製薬㈱、白鳥製薬㈱、ゼリア新薬工業㈱、第一化学薬品㈱、ダイナボット㈱、ダウ・ケミカル日本㈱、千葉県職員、ディック・ハーキュレス㈱、富山化学工業㈱、日産化学工業㈱、㈱ニチレイ、日本IBM㈱、日本ケミファ㈱、日本チバガイギー㈱、日立化成㈱、㈱日立製作所、富士レビオ㈱、プリストル・マイヤーズ㈱、ヘキスト・ジャパン㈱、ホーユー㈱、三井製薬工業㈱、三菱瓦斯化学㈱、三菱製紙㈱、森永乳業㈱、自営業（上林薬盛堂）

## 薬学部教員組織

1991. 4. 1 現在

	講 座	研 究 室	研究室略称	教 授	助 教 授	講 師	助 手	教務職員
総合 薬品 科 学	衛生化学	衛 生 化 学	衛 生		坂井 和男		吹野 秀亜 小泉 利明	
		薬品分析化学	分 析	今成登志男		戸井田敏彦	輿石 一郎	豊田 英尚
		臨床化学	臨 床	五十嵐一衛	小林 弘		柿沼 喜己 柏木 敬子	
	医薬品素材学	薬 化 学	薬 化	坂井進一郎	相見 則郎		高山 廣光	北島満里子
		生 薬 学	生 薬	村越 勇		齋藤 和季	関根 利一	
		薬品合成化学	合 成	日野 亨	中川 昌子		鳥澤 保廣	川手 智彦
科 学	薬効・安全性学	薬品製造学	製 造	石井 永	原山 尚		石川 勉	
		活性構造化学	構 造	山崎 幹夫	藤本 治宏		奥山 恵美	
		生 化 学	生 化	廣瀬 聖雄		熊谷 宏	懸川 友人	石井伊都子
	生物物理化学	薬 物 学	薬 物	佐藤 哲男	上野 光一		五十嵐 隆	
		薬品化 学	品 化	渡辺 和夫	矢野 真吾		堀江 俊治	
		微生物	物 化		津田 積		鈴木 徳昭 笈川 節子	
科 学	医療薬剤学	微生物薬品化学	微生物	澤井 哲夫	山口 明人		塚本喜久雄	
		膜機能学	膜機能	畠本 力	林 万喜		中村辰之介	
	生物薬剤学	生物薬剤学	薬 剤	鈴木 徳治	成松 鎮雄		千葉 雅人	樹渕 泰宏
		製剤工学	製 剤		山本 恵司		小口 敏夫	米持 悅生
	附属 薬用植物園						大森 栄	
							池上 文雄	

## 職員の転入・転出 (1989.4~1991.3)

## ・転入

戸井田敏彦（薬品分析化学・講師）；1989. 4. 1 帝京大学医学部 第2生化学講座 講師より  
 成松 鎮雄（生物薬剤学・助教授）；1991. 3. 1 北陸大学薬学部 衛生化学教室 講師より

## ・転出

藤田 正一（生物薬剤学・助教授）；1990. 7. 16 北海道大学獣医学部 獣医学科 毒性学講座 教授へ

## ・退官

仲井 由宣（製剤工学・教授）；1991. 3. 31 退官（名誉教授）株式会社 製剤研究所所長へ  
 細谷東一郎（生物物理化学・教授）；1991. 3. 31 退官（名誉教授）  
 山根 靖弘（衛生化学・教授）；1991. 3. 31 退官（名誉教授）

## 新しい船出—同窓会から薬友会へ—

平成元年7月8日に千葉大学薬学部創立百周年式典と祝賀会が盛大に挙行されたのを機に、同窓会の一層の発展を期すべく組織換えの話が岩城同窓会長（当時）より提案された。その主な根拠は1) 大学側と同窓会側の一体感が不足している。千葉大出身でない教官との交流が不足している。2) 若い卒業生が同窓会に参加しない。3) 組織が大きくなるにつれ、事務組織の確立と資金源の確保が重要となる等であった。この提案を受け、千葉薬同窓会検討委員会が発足した。構成メンバーは大学側は山根（委員長）、渡辺、澤井、五十嵐、相見、原山、熊谷、戸井田、笈川、小口、関根の11名で、学外は藤沢（S13）、茂木（S19）、三浦（S23）、吉田（S30）、渥美（S31）、国松（S32）、山田（S32）、大川（S32）、村瀬（S38）、小泉（S42）、鈴木（S47）、角田（S52）の12名であった。尚、オブザーバーとして廣瀬学部長が出席された。検討委員会は5回にわたる会合を重ね、新しい組織作り、会則、事業計画、経費確保の対策の原案を作成した。この案は平成2年10月13日の薬友会総会で議決され、新しい同窓会組織としての薬友会が発足した。

### 薬友会の特徴

新体制がこれ迄と違っている点を以下に簡単に紹介します。まず、名称は千葉大学薬友会とし、会長は薬学部長があたることとしました。また、総会は2年に1度原則として千葉大学で行うこととしました。これにより大学側と同窓会側の交流を増やしたいと考えています。更に、この拙文が掲載されているような会報が新しく発行され、1年に1度会員の皆様に配布され、会員間の親睦を深めることにしました。名簿は従来通り4年に1度発行され、終身会員（入会費納入者のこと、薬友会会則参照）に配布されます。また、経費確保のために入会金は2万円となりました。会運営のために、資金確保は最重要課題であり、皆様の御協力を心からお願い致します。薬友会の運営は、会長・副会長を中心として、総務、財務、名簿、事業、会報の5委員会により運営されます。これから薬友会に対するご要望をお便りしていただければ、出来るだけ会の運営に反映して行きたいと考えております。次回の総会は1992年6月頃を予定しております。沢山の人が参加して下さり、旧交を温めあえればと思っております。

### 薬友会の運営経費について

薬友会の主な活動に伴う運営経費予算を御説明します。まず支出面では、本年度から発行の「薬友会報」の配布が、今迄にない大きな出費となります。これにかかる経費としては会報作製費（B5版・8頁）に26万円、3,700人分の郵送費44万円、名簿データ入力・管理費として年間10万円、合計約80万円が最小限必要となります。但し今回のように創刊号ということもあって頁数が増えると20万円くらい更に余分にかかります。

「薬友会会員名簿」は、ちょうど今年が発行年に当たりますが、ほぼ従来通りの形態で作り、終身会員（約1,700人）のみ無料で配布することにして、約320万円かかります。

（名簿作成費250万円、発送費70万円）。但し名簿は4年に1回の発行ですから、年間予算としては1/4の80万円となります。

この他に、総会通知を出す必要があり、これは2年に1度会報と共に全会員に配布する予定です。経費は主として返信用葉書代と印刷代で12万円、従って年間にして約6万円となります。これに運営上の諸雑費として14万円を加えると、1年間の平均支出は最小限に見積っても約180万円となります。

一方、収入面を考えると、毎年定常的に入るものとしては新入生から集める終身会費のみで、約80人として160万円です。これだけではとても足りませんので、薬友会としては会報および名簿にのせる広告として、年間にして45万円程度を見込んでおります。しかしながら、これでもまだ予算に余裕がなく、会員数の増加や郵送料の値上げ等に対応しきれなくなります。そこで、特に現在まだ終身会費を納めておられない方々を中心に、皆様に資金面の御協力をぜひお願いしたいと思います。御都合に応じていろいろな形がとれるように考えてみました。

1. 終身会費（2万円）を納める。
2. 会員名簿（今秋発行）を1冊5千円で購入する。
3. 寄付（1口2千円から）を行う。
4. 会報または名簿に広告をのせる。

以上のいずれかに御協力戴ける場合、同封の郵便振込用紙をご利用下さい。もし、どうしても銀行振込を希望される方々は、千葉銀行西千葉支店、普通預金口座2232357「千葉大学薬友会」宛にご送金下さい。

現在の終身会費制は、昭和48年入学生から適用されましたので、昭和50年以前に卒業された方の中には、御存知ない方も多いのではないかと思います。これからは毎年送られてくる会報を契機に、まだ会費を納入されていない方々の御協力を切にお願い致します。

### 各種委員会役員名簿

総務委員会	○五十嵐、林、川手 村上（S36）、立崎（S41）、野中（S42）
財務委員会	五十嵐、○林、川手 村上（S36）、立崎（S41）、野中（S42） 藤沢（S13：アドバイザー）
名簿委員会	五十嵐、林、○川手 村上（S36）、立崎（S41）、野中（S42）
事業委員会	○戸井田、笈川、山崎（アドバイザー） 大川（S32）、山田（S32）
会報委員会	次頁参照

（○印：委員長）

### 薬友会会員名簿

今秋発行 一部 5,000円

終身会員以外の方はお申し込み下さい。

## たずね人（昭和35年卒業まで）

次の方々は、現在薬友会で住所等がわかりません。ご存じの方は、薬友会名簿係までお知らせください。

（敬称略）

M37. 10. 三木 鼎	S16. 3. 古河 堅平
M44. 11. 高木釣寿郎	S16. 12. 上野 春男
M44. 11. 飛舗 章二	S17. 9. 永井 恭二
T元. 10. 渡辺 洋	S18. 9. 雨宮 丈一
T10. 5. 小林 重喜	S18. 9. 加藤 剛男
T11. 5. 和田 耕作	S20. 9. 王 占奎
T12. 3. 大林 健介	S23. 3. 島村 芳三
T12. 3. 寺田光四郎	S23. 3. 鈴木良太郎
T13. 3. 岩田 正久	S24. 3. 石井 誠吾
T13. 3. 河原田 清	S25. 3. 石塚 宏
T13. 3. 野崎 重男	S25. 3. 藤井 菊司
T15. 3. 池田 汪	S28. 3. 近藤 寿男
S14. 3. 載 昌世	S29. 3. 北川 亮一
S15. 3. 森本 正敏	S35. 3. 馬 瑶

## —速報— 薬学野球部 優勝

薬学部には現在、学生のサークルとして活動しているものに茶道部、華道部、軽音楽同好会、テニス同好会、東洋医学研究会等があります。野球部もその1つですが、最も古い歴史（創部昭和24年）を誇っており、今も多くの部員を擁し活躍中です。この4月29日に、京都において行われた春の四大戦（千葉、東京、京都、大阪、）で見事二戦二勝の成績をあげ優勝しました。昨年は春秋と努力が報われずにいましたが、見事に雪辱を果たしたようです。薬友会員の皆様の伝統ある各サークルへの御援助をお願いいたします。

## みのはな山岳会の活動

昭和34年に薬学部の学生とOBをメンバーとして誕生したのはな山岳会は、薬学部創立百周年記念文集にもみられるように結成—最盛期—休止期を経てこゝ数年再び有志が集まり、年2回の山行を目標として活動を続けている。特に昨年の5月の連休には2年越しの懸案であったヒマラヤトレッキングが10名の会員の参加を得て実現し、目的地こそ多少西へずれてカラコルム山系（パキスタン）に変ったが、全員が高山病にもめげずパースー、バツーラ両氷河を見下す4,200mの尾根へ登り、天候にも恵まれて素晴らしい山旅を楽しむ事ができた。又7月には木曾御獄登山に十数名が参加している。今年は5月に山梨の毛無山へ登り、下部温泉で旧交を温める予定である。とにかく殆んどが30年来の山の仲間なので充分に気心も知れて居り、日頃のストレスも吹とんでも元気で、毎年顔を合わせ度いと心から願っている。写真前列左より江崎、現地リーダー、日比、ツアーリーダー、福原、塩野谷、後列左より佐藤、村上、西井戸、吉田、佐藤、牛山。

（吉田智子）



## 編集後記

会員相互そして大学とを結ぶ縊として薬友会報が発刊されることとなりました。千葉薬の歴史と伝統は100余年にわたって綿々と作り上げられてきましたが、そうした流れの中に会報が加わったことは喜ばしいことです。会員の皆さんを持つておられる、それぞれの時代の千葉薬のひとときでも想い出して頂ければ幸いです。誤算といえば予想を上まわる原稿を頂戴し、1ページの行数をできる限り増やしたため、かなり読み難くなってしまったことです。お詫びいたします。原稿を送って下さった皆様、快く広告をお出し頂いた皆様をはじめ御協力頂いた多くの方々に感謝いたします。早速、第2号（92年4月予定）の準備にかかりますが、永く御支援頂き会報の歴史が続くよう望んでおります。

会報委員 山本恵司（委員長）

上野幸夫（S33）	奥山恵美
角田範子（S52）	小泉光正（S42）
高山廣光	中辻晶子（院生）
増本真理（院生）	山口明人

発行 千葉大学薬友会 会報委員会

〒260 千葉市弥生町1-33

TEL 0472 (51) 1111

FAX 0472 (55) 1574